

7 月 25 日（金）近鉄名古屋駅 6 時 50 分発賢島行きに乗り込み、8 時 12 分宇治山田駅に到着。駅のコンビニで昼食用のおにぎりを仕入れて他のクルー 2 名と共にタクシーに乗車、9 時頃に伊勢志摩マリーナに到着。坂道の上からハーバーを見下ろすと既に出港していく艇も見られる。我が艇は既に出港準備が整っており、乗員 6 名揃いの赤のポロシャツを着て写真撮影して出港し、青と黄の H マーク旗をフォーステイに掲げる。レース海面へ向かう途中、ダンシングビーンズ（DB）と写真を撮り合う。このところ DB には後塵を拝するばかりであるが今回のレースはどうなることやら。



風は南の軽風、スタートラインは上有利に設定されており、混み合うのを避け、真ん中から下よりでフレッシュウインドを得ることを重視。1 分程前、スタートラインをしっかりと確認するためにバウへ行って、左右のエンドを視認、まだラインまでは距離があると思って GO と伝えるが、後ろの方ではラインから出そうだとの声もあり、少しバウダウンした後スタートラインを切る。下側運営艇には X 旗が掲揚されるが、自分としてはラインを確認したつもりなのでそのまま続行する。クローズでのセーリングとなり 8Knot 程度を超えるとますますの走りができるが、それより弱くなると同じ様な大きさの艇にも走り負ける。

神ノ島のウェイポイント手前では DB とミーティングするが先行される。11 時スタートから約 2 時間でウェイポイントを回航し、東へとバウを向けるがアパレントの風向は 60 度でスピンは揚げられないと判断。中には果敢にスピンを揚げて角度は少しおちるが、スピード重視でいく艇も見られる（クラス 1 位のトラビス等）。

アパレントが 90 度近くになりスピニアップして暫く走るが、再び風が前に回りスピンドウン。ウェイポイ

ント回航後はDBと併走するような状況となって気を抜くことができない。



日付が替わり暫くするとアパレント 90 度近くを示しており、夜間でスピニアップをやや躊躇するが、思い切ってやることにする。慣れない夜間でのスピンセットを慎重に行って、安全策を取りジブダウンした後にスピニアップ。今回は普段バウマンを務めるクルーが乗艇していないので、私が即席のバウマンを務める。

ヘルムは集中力を切らさないよう 1 時間程で交替(金田、正木)、スピントリムも同様に二人で交替(中村、榊原)。メインセルトリムは申し訳ないが神谷君一人、もう一人のクルー川西さんは体験乗船のつमोरりのところスピンシートのウインチ巻きを担当してもらう。

目標アングルから多少ずれても、艇速を重視してアパレント 90 度をキープするようにして距離を稼ぐ。夜明けを迎え周囲の艇が見えるようになってくると、前方や陸側に自艇よりも大型の艇も含め数艇が視認できる。日没前よりも挽回できたようだ。

目標の利島が正面になり、島影から朝日が昇ってくる。利島の南側を通過するとジャイブして伊豆大島の東へ。スマホが受信可能となってトラックトラックの情報が入り、クラス 2 位のポジション。1 位のトラビスは前方遠くに視認でき、3 位の Twinkle Star (TS) はすぐ後ろに位置している。レーティングはこの順位とは逆で

「トラビス (アーシャンボー31) < ホーネット < TS (シドニー32)」。クラス 1 位にはトラビスを追い抜き更に差を付けなければならずハードルが高いが、3 位入賞は最後まで頑張れば十分可能性があるポジションである。

西から東への強い潮があり、伊豆大島より西を目標にして 90 度近くまで上らせる。TS が執拗に迫ってくるが、風上側に行かせないように牽制して凌いでいると、漸く TS は諦めてバウダウンしてジャイブ、右方向へと走って行った。

伊豆大島を過ぎたあたりから風が徐々に上がってきたかと思うと、一気に 20Knot 以上に吹き上がりブローチング。虎の子のスピンがバーストしてしまう。

破れたスピンを回収してジブを揚げ、ランニングでフィニッシュラインを目指す。外洋特有の周期の大きな波に乘せるように真ランで走らせていると、どんどん江ノ島に近づいていき 15 時過ぎにはフィニッシュすることができた。

トラックトラックではクラス 2 位、入賞を果たせたと思ったが、一夜明けてレース結果を見ると、リコールによるタイムペナルティ 5% が課せられてクラス 4 位。

自分としての目標は第一に完走、あわよくばクラス入賞と思っていたが、まさかの痛恨のリコールで入賞を逃してしまった。ラインを確認してスタートしたつもりだったので尚更ショックを受けた。強風でスピンを破損したものの、リコール以外は大きなトラブルやミスもなく、乗員 6 人が力を合わせて好走できていいレース内容であった。特に深夜のスピンランで挽回できた点が良かった。

ウェイポイントまでは上り、そこから利島まではスターボー本、利島からフィニッシュはランニングで、途中、無風で漂うこともなく、猛暑の太平洋高気圧の中、180 マイルを約 28 時間で走りきった。